

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 三田保育園
施設所在地	東京都港区三田1-2-18 TTDビル2F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子どもたちはもともと表現活動として製作遊びに興味関心があり、自ら様々な素材を求めたり観察しながら自分の思い描くものを自ら作り出す活動に取り組んできた。これまで保育では色鉛筆やクレヨンなどの画材に触れながら「描く」活動もあったが、その中で普段触れている絵本の水彩画を見てこれまで触れたことのない画材や素材を使っの表現をしてみたいという声が上がった。前年度は園予算から布を素材として提供し様々な活動へ広げていった。今年度は水彩絵の具や粘土などでの表現活動を行うためこのテーマとする。

2. 活動スケジュール

5月14日：幼児会議にて担当の任命。クラス担任の他に担当を置く。

7月9日：購入した水彩絵の具の使い方を学び、好きな絵を描く活動して興味をさぐる。

9月10日：担当者、担任と会議をして柵、棚を設置して、アトリエ空間を作りより集中した環境で表現活動を楽しめるように整えた。

9月18日：子ども会議1回目開催。会議の意見をもとに、段ボールハウス製作を行う。

10月30日：こども会議3回目開催。段ボールハウスの壁を水彩絵の具で創作する。

11月20、27日：こども会議4回目開催。油粘土や水彩絵の具、廃材などを使用して創作活動をする。

12月4日：こども会議5回目開催。お店屋さんごっこで行う内容を決定する。

12月11、18日、1月8日：会議で決まった物を創作する。

1月29日：保育者や友達と創作したものでお店屋さんごっこを開催してやり取りを楽しむ。

1月：活動についてまとめ、今後の展開について会議。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

水彩絵の具、パレット、スモック、筆、水性ペン、粘土を新しく追加して、いつでも表現活動を行えるような環境を整えた。

柵や棚を追加して棚に使用する道具をしまい、柵や棚を専用パーツで組み立ててアトリエを作り集中して行える環境作りをした。

段ボールハウスを作る際は広いスペースを確保し、様々な形の段ボールを用意した。

お店屋さんごっこの浜焼屋さんを作る為、紙粘土、アルミニウムなどを追加して創作活動を意欲的に行えるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 1.水彩絵の具の使い方を学び、一人ひとりが思い思いの創作をして表現する
- 2.色を混ぜてみて色んな色が作れることを知り、探求する。
- 3.4～5歳児の保育室を区切り、アトリエを作ったことでより集中して表現活動を行う。
今までも絵をかくことは子どもたちも行っていたが、アトリエがあることで自由にいつでも絵の具が使える、材料が使える場が提供できた。そのことで表現の幅が広がったり等、活動がより深まった
- 4.アトリエの設置により遊びがつながることで、子どもたちから「家を作りたい」という案から段ボールハウス作りを保育者や友達と協力して創作する。壁を様々な色を混色したりして作り、カラフルな花を描いた壁を創作する。
家を作ったことで家の周りに畑をつくりたいという意見がでるなど、活動を始めて8か月間新しい活動が広がり続けている。
- 5.子ども達の実体験がキャンプごっこになり、そこからお店屋さんしたい案が子どもたちから出て、お店屋さんごっこ商品作りを粘土、絵の具などを使用して創作を2か月間継続できている。
- 6.表現活動について担当と担任で振り返り、園内スタッフ、保護者へドキュメンテーションにて発信することで、園の文化として着実に根付き始めている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めは水彩絵の具を活動に取り入れる事で表現活動の幅が広がっていた。その中で活動の節目ごとにこども会議を行い、「次は何をしたいか」「どうしたらもっと楽しく出来るか」を子ども達自身が一人ひとり考え、話し合う機会を大切にした。また、会議で出た案は保育室に設置してあるホワイトボードに記入して分かりやすいようにした。

子ども会議では「お家作りたい」という案が出て、段ボールハウス作りを行った。次は「可愛い壁が良い」「じゃあ色んなお花描こう」と遊びが展開していけるような案がたくさん出た。大きな模造紙を用意すると思い思いの花を描いていた。創作中は友達同士で「僕はこれするからここやって」と「私はここ塗るね」などと声をかけ合いながら役割を自分たちで決めながら表現活動を楽しむ事が出来ていた。

完成すると「遊ぼう!」と1人が声かけるとごっこ遊びを楽しみながら、「今度はキャンプもいいなー」と遊びの中でさらにあそびを発展していけるような案が出た。遊びの中で魚釣りが出て、粘土や絵の具を使用して魚やエビなどを創作した。その後、「お店屋さんも良いね」「浜焼屋さんにしよう」と言う案からお店屋さんごっこを開催した。

保育者は子どもの発想を否定せず受け止めて、必要に応じて環境や素材を整える事で子ども達の主体的な活動を支えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

①子どもたちはもともと表現活動として製作遊びに興味関心があり、自ら様々な素材を求めたり観察しながら自分の思い描くものを自ら作り出す活動に取り組んできた。これまで保育では色鉛筆やクレヨンなどの画材に触れながら「描く」活動もあったが、その中で普段触れている絵本の水彩画を見てこれまで触れたことのない画材や素材を使っの表現をしてみたいという声が上がった。

②今回の取り組みにより、水彩絵の具を使用する事で表現活動の幅が大きく広がった。新しい遊びの案を自ら出したり、会議を自主的に行い表現活動を展開していった。

③会議を何度も行う事で一人ひとりがしっかりと意見を言えるようになっていた。また、一緒に作品を作る事で役割分担を自らして協力する姿が沢山見られるようになった。

④今後も子ども達の「やってみたい」という気持ちを大切に表現活動が遊びや園行事へ自然に繋がっていけるように環境づくりを継続していきたい。

具体的には昨年は布や廃材、今年は粘土や絵の具を取り入れた活動だったので、来年度は新しい素材を取り入れて表現の幅を広げていきたい。

さらに、子ども達の実体験をもとにした表現をしていく事で活動を豊かにしていきたい。